

阿智村事務事業評価シート

事務事業名	畜産農業振興	担当者	建設農林課	農政係
-------	--------	-----	-------	-----

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	3. 地域を支える力強い産業の村／産業の振興／農業の振興・有機活用農業推進事業			
関連する主な計画等				
根拠法	家畜診療所設置要綱、農業振興事業補助金交付要綱			
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付	<input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他
事業の対象者	畜産農家			
事業開始年	H14	<input type="checkbox"/> 時期不明	事業の終期	<input checked="" type="checkbox"/> 終期末定

②事務事業の計画(PLAN)、取組(DO)

実施目的	有機活用農業を推進するうえで、畜産農家の経営を維持、振興することが欠かせないことから、家畜診療所を設置し畜産振興を図る。また、計画的な畜舎消毒の補助を行い畜産環境改善を図る。																	
具体的取組	国の農業災害補償法に基づく農業共済組合の組織の広域化に伴い、平成11年に阿智村家畜診療所を設置して、牛家畜の診療、家畜防疫業務、家畜飼育管理指導業務等について畜産振興を図ってきた。また、農家ごとの計画的な畜舎消毒の補助を実施することで、畜舎の環境衛生を推進してきた。平成22年4月に宮崎県で発生した口蹄疫に対しても近隣町村の中でもいち早く対応することができた。平成15年度より改定していなかった嘱託獣医師の報酬を平成23年度の共済の往診単価の変更に合わせて見直しを行った。																	
実績・効果	・家畜の早期の診療等や家畜飼育管理指導が行われている。 【参考】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>診療件数</td> <td>27年度</td> <td>26年度</td> <td>25年度</td> <td>24年度</td> <td>23年度</td> </tr> <tr> <td></td> <td>307</td> <td>400</td> <td>297</td> <td>420</td> <td>370</td> </tr> </table> ・農家ごとの計画的な畜舎消毒を補助することにより畜舎環境衛生に対する意識向上が図られている。 ・仮に口蹄疫、鳥インフルエンザ等発生した場合には、いち早く対応することができる。						診療件数	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度		307	400	297	420	370
診療件数	27年度	26年度	25年度	24年度	23年度													
	307	400	297	420	370													
歳出の内訳(千円)	項目	金額	項目	金額	項目	金額												
	嘱託獣医師報酬	1,812																
	畜産環境整備補助金	134																
事業コスト	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度												
	実績額(千円)	1,950	2,013	1,946	2,062	2,062												
	うち一般財源	1,950	2,013	1,946	2,062	2,062												
	うち補助金																	
	うち個人負担																	
	従事職員(人)	正規職員 0.1	0.1	0.1	0.1	0.1												
	臨時職員																	

③評価(CHECK)

区分	個別判定	判定理由	総合判定	
必要性	住民のニーズは高いか	b	畜産農家からのニーズは非常に高い。	C
	手段、成果は妥当か	b	獣医師が畜産振興に果たす役割は大きい。	
	対象者の設定は妥当か	a	村内畜産農家を対象としており妥当である。	
	村の関与は妥当か	a	村の農業生産額で主要な位置を占めており妥当である。	
有効性	期待された効果が得られたか		農家、飼育頭数が減少していく中で、年間300件以上の診療件数(給付対象)があり、畜産振興において獣医師が果たしている役割は大きい。	B
効率性	コストの削減に努めたか	b	獣医師が常時村内に滞在し、早期対応が可能で畜産動物の事故が減少。	B
	効率性を高める工夫はされたか	b	畜産農家と懇談会を行い、現状を把握した。	
公平性	受益者負担は適切か		家畜診療費負担あり(村は出張経費を助成)	C
総合評価	B			

④改善(ACTION)

事業の方向性	拡充
課題	有機活用農業推進事業に必要な不可欠な畜産農家の経営維持と発展に新たな経営支援が求められている。
今後の取り組み	畜産農家との意見・情報交換の場づくり。